



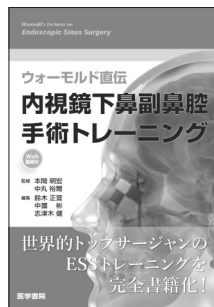
書
評

ウォーモルド直伝 内視鏡下鼻副鼻腔手術 トレーニング [Web 動画付]

監修：本間明宏，中丸裕爾
編：鈴木正宣，中蘭 彬，志津木 健

A4・頁 264 2024 年 1 月 定価：15,400 円（本体 14,000 円＋税 10%）
[ISBN978-4-260-05240-5] 医学書院 刊

<評者> 近藤健二（東大教授・耳鼻咽喉科・頭頸部外科）



内視鏡下鼻副鼻腔手術を学ぶ手法として、手術書を読む、手術に入って指導医に教わる、洗練された手術の動画を視聴する、などがある。いずれも手術修練の重要な要素であるが、手術書は通常「仮想的・理想的」な解剖の症例に対する手順が示されており、実際の症例の解剖の多様性に遭遇したときに、はたと行き詰まってしまう場合がある。手術の助手や洗練された手術動画の視聴から得られるものは大きいですが、次々とモニターに現れて瞬時に処理される個々の構造物に対する系統的な知識がなければ、教育効果を最適化することは難しい。

本書は内視鏡下経鼻手術の第一人者であるアデレード大学の Wormald 教授と北大耳鼻咽喉科の先生方により企画された、内視鏡下鼻副鼻腔手術の症例問題を論理的に解く力を身につけるためのユニークなトレーニングブックである。もちろん単独で読んでも学習効果が上がるが、Wormald 教授の原著『ウォーモルド内視鏡下鼻副鼻腔・頭蓋底手術』をよりよく理解するための傍用の参考書にもなり、また原著から得られた知識や手術手技をさらに飛躍させ自分のものとするための実践のための書ともなる。加えて本書は用語の解説が豊富で、自分で鼻科学の原著論文を読むための基礎知識の習得にも役立つ。

本文で述べられている通り、本書ではまず「手術を簡単にする」ための工夫、なぜそれを行うのか、その理論的根拠となる研究結果は何か、という点が詳しく解説されている。続いて副鼻腔手術の各論へと進むが、特に鼻科手術の難関である前頭洞の操作については多くのページが割かれている。術前 CT 読影による

個々の症例の蜂巢と排泄路の解剖、術前プランニングの解説に続いて、600 枚を超える豊富なイラストによって手術の流れがコマ送りのように順を追って図解されている。問題演習と答え合わせを行いながら学習が進んでいくイメージである。本書を読みながら副鼻腔 3D モデルを用いた手術トレーニングを行えば、まるで Wormald 教授が傍らに寄り添って指導してくれているかのような感覚になるだろう。

また、本書には 13 にも及ぶコラムが掲載されており、アデレード留学を通じて得られた海外でのリアルな経験や知識、副鼻腔シェーマなど北大で実践されている試みが紹介されており、楽しく読み進めることができる。さらに、各ページの下欄にはワンポイントアドバイスが載っている。それぞれほんの数行のコメントであるが、いずれもある程度の鼻科手術の経験がある医師であれば一度は立ち止まって考えたことがある疑問にエキスパートの意見が示されており、思わず見入ってしまう。

このような読み応えのある本が完成したのは、もちろん Wormald 教授の豊富な経験と手術を科学するマインドが出発点ではあるが、さらに北大の執筆者の先生方が Wormald 教授の手術コンセプトと体系をいったん消化した上で伝道師として読者にわかりやすい形で書き下してくれていることが大きい。

本書は内視鏡下鼻副鼻腔手術に関する副鼻腔解剖の知識や手術手技を実臨床へと活用するために非常に適した書である。Wormald 教授直伝の鼻科手術に関するテクニックや心得を学べる一冊として、初学者から熟練者まで全ての鼻科手術に携わる医師にお薦めする。